

2022年9月28日

肝切除術後の肝細胞がん患者の予後予測における

好中球-リンパ球比の最適カットオフ値の検討

修士課程2年 武穎

【概要】

すべてのがんの中で、肝細胞がん（Hepatocellular carcinoma, HCC）は罹患率が6番目に高く、死亡率が2番目に高いため、人間の健康に甚大な脅威を与えている。現在、HCCの治療法は肝移植、肝切除、ラジオ波焼灼術（RFA）などがあるが、多くの患者が依然として、再発や不十分な治療結果といった予後不良に苦しんでいる。肝癌の再発に関する研究では、肝切除後1年、3年、5年での再発率は、それぞれ0.301、0.623、0.790と報告されている。価値のある予後因子を探索し、HCCの予後を正確に予測することによって、その後の臨床治療の指針や患者個々の治療法などの確立に大きな可能性をもたらす。

前回メタアナリシスデータ統合の結果として、術前高NLRのHCC患者は術前低NLRのHCC患者に比べて、RFS、OS、DFSのいずれも短くなることが示唆された。しかし、このメタアナリシスには限界がある。対象となった研究で使用された術前NLRのカットオフ値の範囲が1.505～5.0となり、術前NLRのカットオフ値が不一致である。術前NLRの予後有効性を評価するためには、どのカットオフ値が最適であるかを明らかにすることが重要であると考えられる。

今回の抄読会では、メタアナリシスを用いて、予後因子NLRの予測能力を評価し、最適なカットオフ値を検討する。

【参考文献】

Liu L, Gong Y, Zhang Q, Cai P, Feng L. Prognostic Roles of Blood Inflammatory Markers in Hepatocellular Carcinoma Patients Taking Sorafenib. A Systematic Review and Meta-Analysis. *BioMed research international* 2019;9:1557.

Wang D, Bai N, Hu X, et al. Preoperative inflammatory markers of NLR and PLR as indicators of poor prognosis in resectable HCC. *PeerJ* 2019;7:e7132.

Forde J, Milla E, Khan W, Cabrera R. Utility of inflammatory markers in predicting hepatocellular carcinoma survival after liver transplantation. *BioMed research international* 2019;2019.